

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.120

2009/11/20

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 上空からも復元作業成果みごと・・・

北部湿原の復元はおかげさまで完了しました

復元した北部湿原に潤沢な水 (09/11/15)

多くの方々のご尽力と協力によって成った北部湿原の復元ですが、1960年代の人為改変の地形復元（湿原北側の水路や表面の凹凸等）は不可能なものの湿原としての機能は復元できたと思われます。復元後の水環境も改善され林地化の原因である乾燥化が止まったため、ソヨゴ・タニウツギ・ササ（一部だが）が枯死し始めました。加えてトンボの産卵も増加し湿地のあちこちに這い跡が見られるようになりました。前号で報告したミヤコアザミ・アケボノソウも採種しておいた種子を分布地点近くに播種しました。来春の発芽がまたれるところです。もつとも増加する傾向にある食害とどのよう

今春の湿原の状態 (09/04/24)

に抗するかの課題は残っています。今秋は復元成った北部湿原はもとより中央湿原までの湿原が、今ミヤマウメドキが実にみごとです。例年にない実を付け落葉が始まると同時にその輝きが増しています。もちろん「四季の森」の紅葉の美しさも枯死木の伐採で、一帯の空気すら紅葉しているのではと錯覚するほどです。11月21日の保全作業では、観察コース沿いのササユリ分布域に、その地点で採種した種子1万粒を播種します。その成果は7年後ですが。



復元北部湿原のヤゴの這い跡とヤゴ (09/11/10)





保全作業に参加してもらったみなさん



刈り払いが完了した北部湿原で ( 09/11/08 )



刈り払い作業中 ( 09/11/08 )



刈り払い後の整理作業 ( 09/11/08 )



復元北部湿原の紅葉 ( 09/11/12 )



復元前の北部湿原 ( 04/11/06 )

山門老人会のみなさんには 2005 年から復元作業に協力をして頂いています。林地化した北部湿原を復元すべく作業に取りかかったものの、林立するアカマツ・入り込みを阻止するイヌツゲやノイバラを前に呆然とした日々が今は懐かしくさえ思えます。人為改変から 40 数年ぶりに元の湿原に戻すことが出来ました。この間会員は



季節外れのバイカオウレン ( 09/11/13 ) た結果なのでしょう。

言うまでもなく山門老人会・淡海森林クラブはじめ多くのボランティアの皆さんの協力をいただきました。ここに改めて感謝の意を表します。

**季節外れ** 沢沿いにはバイカオウレン、湿原ではウグイスの谷渡りと季節外れの現象が起こっています。バイカオウレンやユキグニミツバツジのこのような現象は過去にも何回か観られましたが、ウグイスの谷渡りが数日にわたり聞けたのは今年が初めてでした。木枯らし 1 号の後の高温が効いたものと思われますが、四季の変化に敏感な身には異様さを感じますが、これも生物の順応なのでしょう。このような観察の積み重ねから今日のような天気予報の無かった時代に、先人は「 〇〇 の年は××が起こる」的言い伝えを創りだしたのかも知れません。生物暦はそれが発達し

